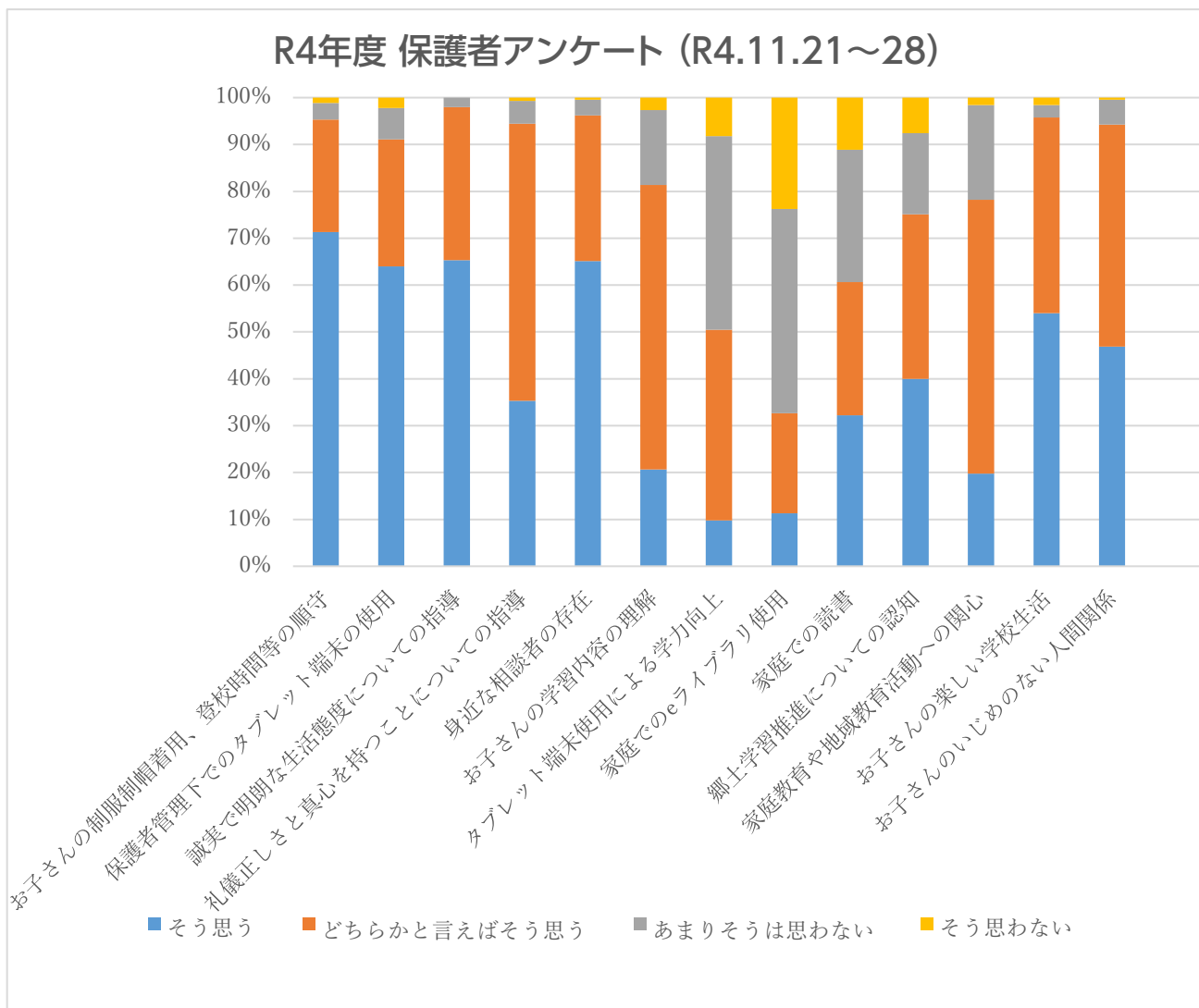


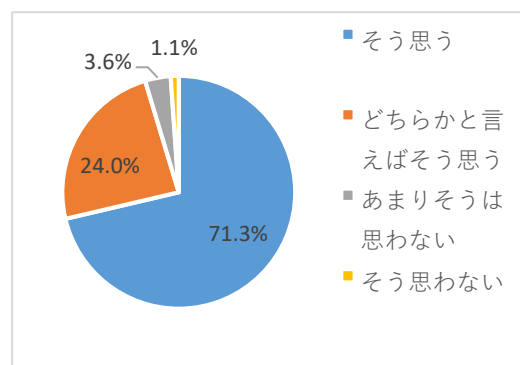
# ＜令和4年度 保護者アンケート R4.11.21～28 実施＞



## 1、規範意識の向上に関すること

(1) お子さんは、制服や制帽を着用して学校に行きましたか。また「7:50 から」の登校時間を守って、家を出発していましたか。

「そう思う」と回答された保護者は71.3%、「どちらかと言えばそう思う」と回答された保護者は24.0%で、合計95.3%の保護者が肯定的な回答です。しかしながら、同様の質問に対する児童の肯定的回答は83.2%なので、保護者の認識と実際の子どもたちの行動には少しずれがあるようです。「制帽を持って行ったと思っていたが、実際は家に置きっぱなしだった。」「友達との約束だということで早めに登校させていたが、早く到着しすぎていたようだ。」といったことです。規則や決まりは守れたかどうかを曖昧にせず、本人と保護者が相互に確認し合いながら、ご家庭でもお子さんの規則や決まりを守る気持ちを高めていただきたいと思います。

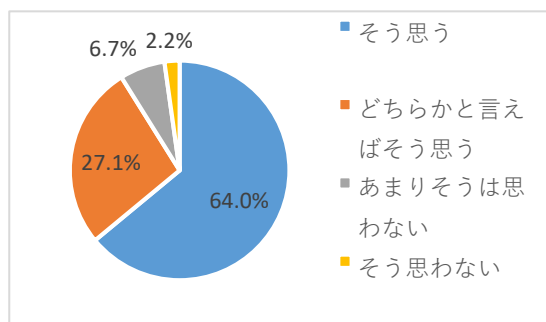


なお、「制服を強要するのはやめたらどうか。」のご意見を頂きましたが、3～4年前、保護者へのアンケート結果を参照して、育友会からも「制服を存続してほしい。」との要望が出されたため、制服と制帽を私服に替え

ることはしませんでした。

(2) お子さんのタブレット端末については、保護者の管理の下で、決まり(モラルや使用時間)を守って使わせていますか。

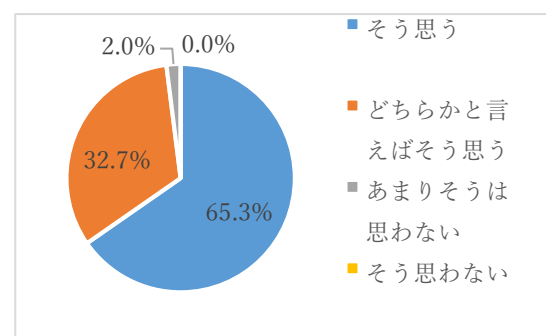
この設問に「そう思う」と回答された保護者は64.0%、「どちらかと言えばそう思う」と回答された保護者は27.1%で、合わせると91.1%になりました。しかし、「タブレットを夜に隠れて使用しているの度々注意するが、数日経過すると再び使用している。」「授業の様子をオンラインで見ていると、明らかに授業とは関係ないサイトを開いてゲームに興じているのではないかとと思われる子どもがいる。」という意見が保護者の皆さんから寄せられています。



子どもは興味のあることに対し、我慢できずに行動してしまいます。11月某日、本校児童のインターネット接続時間と時刻、そして、接続したサイトを調べますと、平日ですが、朝4時からインターネットへの接続が始まり、深夜1時まで児童の誰かが接続しており、中には休み時間もタブレット端末で禁止されているゲームをしている実態がありました。学習以外のゲーム等での使用や友だち同士での学習に関係ないチャットへの書き込みは市教委も学校も認めていません。タブレット端末をはじめ、ICT機器の使用について、ご家庭ではお子さんとのような約束を取り決めておられますか。ご家庭での機器の保管場所は、保護者の目が届くところでしょうか。今年の全国学力・学習状況調査でも、ICT機器の使い方について、本校6年生の11.8%は「家の人と約束事がない。」と回答していますので、早急に家族で話し合っていたいただきたいと思います。

(3) 嘘をついたりごまかしたりせず、過ちを素直に認めて誠実に明るい心で生活することを、お子さんに話されていますか。

この設問に「そう思う」と回答された保護者は63.3%、「どちらかと言えばそう思う」と回答された保護者は32.7%で、合計98.0%が肯定的な回答でした。

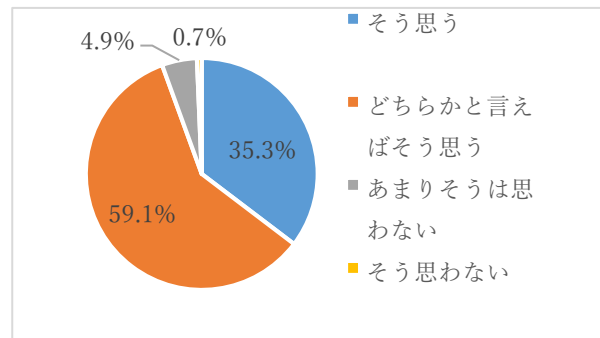


最近の子どもたちのトラブルでは、他人の気持ちを察することができない、また、人に譲ることができなったり、他人の意見を聞けなかったりして、当事者同士の話し合いができないことがしばしばあります。「自分は正しい、相手がおかしい。」「みんながやっている事なのに、何が悪いのか。」「どうして自分だけ注意されるのか。」「やってるのは自分だけじゃない。」と、自分が否定されるのを極端に恐れ、また、それを回避しようと意地を張ってしまうのです。「誰だって過ちはあるよ。だから、その過ちに気づくことが大事で、そういう時にはちゃんと相手に謝った方がいい。腹を立てたり悲しんだりしながら日々を過ごすのは嫌だよね。」というご家族の声が、子どもの心の成長につながります。逃げずに話し合いや謝罪をするよう、お子さんにお声がけください。ご家庭での指導をよろしくお願いいたします。

(4) お子さんは、お友だちにも先生にも礼儀正しく、真心をもって接し、良い人間関係を築いているようでしたか。

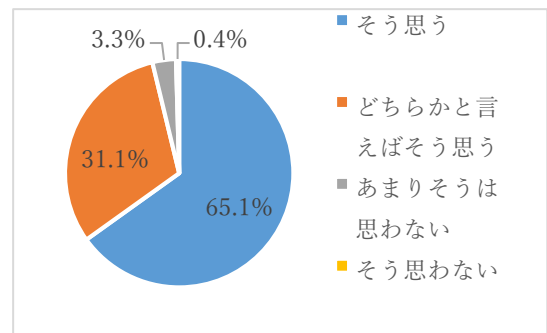
「そう思う」と回答された保護者は 35.3%、「どちらかと言えばそう思う」と回答された保護者は 59.1% で、肯定的回答は、全体の 94.4% でした。児童にもアンケートで同様の内容で聞いたのですが、「そう思う」と回答した児童は 53.2% で、保護者の皆様の回答よりも 20 ポイント近く高く、良い人間関係を築けていると胸を張って言える児童が多いのです。

礼儀正しさは朝の挨拶にも現れています。「おはようございます。」の挨拶が全校児童に広がりました。以前は教職員が挨拶をしても、恥ずかしそうに下を向く子どもが多かったのですが、今、たくさんの子どもがペコリとお辞儀をしながら「おはようございます。」と挨拶します。良い人間関係というのは、相手に対する思いやりの心や優しさが基盤です。たくさんの子どもたちの清らかな心が育つよう、教職員は子どもたちと心を通わせながら学校生活を送りたいと思います。



(5) お子さんのことを相談できる人が、身の回りにいらっしゃいますか。

「そう思う」と答えておられる保護者は 65.1%、「どちらかと言えばそう思う」と答えられた保護者は 31.1% で、ほとんどの方が肯定的な回答をされました。学校には八木スクール・カウンセラーが月に一度来校し、児童や保護者の話を聞いてくださいます。年間 17 回の来校で、のべ 68 人のカウンセリングを予定しているのですが、まだ時間的に余裕がありますので、お子さんのことや子育て全般で悩んでいらっしゃる方は、一度カウンセリングを受けられてはどうでしょうか。ご希望の方は本校教頭までお願いします。また、



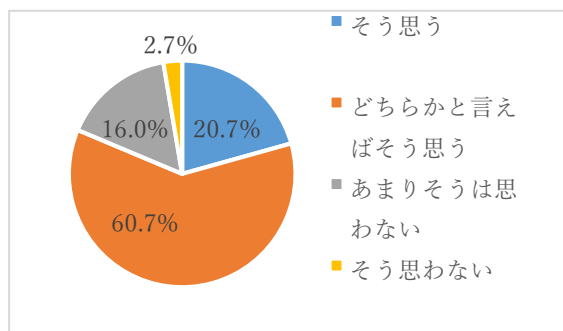
- ・不登校や行き渋りのお子さんについての相談は「のびのびホットルーム」(☎77-6789)
- ・子育ての相談は「サポートセンターゆう」(☎73-1005)
- ・お子さんの発達や成長についての相談は「ことばの教室」(☎75-1408)
- ・教育についての相談は「教育相談室」(☎74-5571)

でも相談をすることができます。

## 2、学習について

(6) お子さんは、学校で学ぶ勉強の内容を、全て理解できているでしょうか。

「そう思う」と答えた保護者は 20.7%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた保護者は 60.7% です。つまり、これは、2 割ほどの保護者が、「うちの子どもは、学校の勉強が分かっていないのではないか。」と不安になっておられるということです。



「算数で〇〇の単元がまるごとわからないと言っていました。

親の説明で補足できているのか不安です。また、もしかしたら他にも分からないことがあるのに、それにすら気づいていないのではないかと心配です。」

「学習意欲より遊び意欲が高まっていて、学力が落ち気味です。」

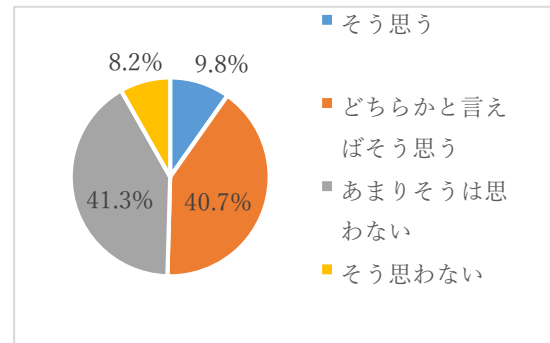
「親の世代と違って宿題が少ないため、『子ども自身が自分で課題を見つけて勉強する』という学習スタイルができていないと感じる。」

という意見がありました。教員のきめ細かな指導や個別の指導ができていないのではないかと思います。テストだけではなく、授業中の様子や態度からも、子ども一人一人の習熟を察していくことが大事だと思います。

(7) お子さんの学ぶ力は、タブレット端末の使用により、向上したと思われますか。

「そう思う」と回答した保護者は 9.8%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した保護者は 40.7%で、肯定的な回答をした保護者は合わせて 50.5%でした。

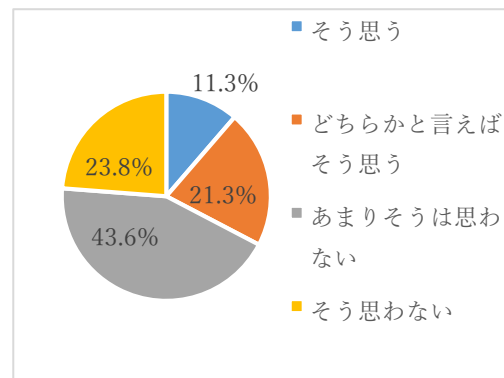
一人1台ずつ端末を持つようになってから、子どもたちの学習活動に変化が出ています。話し合い活動や表現活動、創作活動では、文章の記述量が増加したり、図表や画像と文章を融合させるようになっていたりしています。子どもたちからは「文章を書くことに対するハードルが下がった。」「自分の考えを表現しやすくなった。」「目にする文字量や扱う情報量が増えた。」「切り取りやペーストで文章を整理しやすくなった。」など、自分の変化を実感しているように思われます。このことが将来の学ぶ力や学力に現れることを信じて、学習活動の1つの方法として、タブレット端末をこれからも使用していきます。



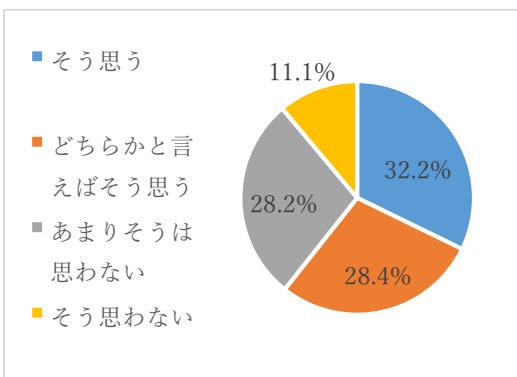
(8) お子さんは、家でeライブラリ(学習ソフト)を使って学習していましたか。

この設問に「そう思う」と回答した保護者は 11.3%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した保護者は 21.3%、肯定的な回答は、合わせても32.6%しかありません。つまり、家庭学習にeライブラリを活用しきれていない実態が伺えます。

「作成や印刷の手間がない。」「一人一人に合わせた学習問題を提供できる。」「即時に採点される。」「ヒントや解説が充実している。」「学習履歴が残る。」というのがeライブラリの利点です。教職員が子どもたちに指導し切れていないことがわかりましたので、昨年同様、長期休業中の学習課題の1つに組み入れたいと思います。



(9) お子さんが家で読書する姿を見かけられましたか。



この設問に「そう思う」と回答した保護者は32.2%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した保護者は 28.4%で、合計 60.6%が肯定的な回答をしています。同じ質問で、児童は 68.9%が「家で本を読んでいる。」と肯定的な回答をしました。

学童期の読書活動の重要性はずいぶん前から言われています。学童期で育てなければならないことの1つが語彙力です。語彙力が増えないと、その後の青年期に論理的思考力を伸ばすことはできません。また、語彙力が高まることによって感受性も高まり、それが結果として豊かな心を育むことになるのです。

心の成長や心の豊かさ、そして幸福度に関係するのが、実は語彙力であり、読書力なのです。

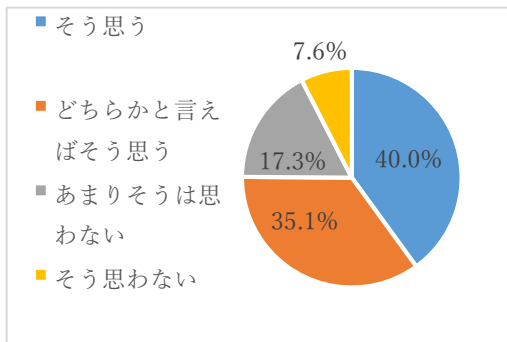
しかし、6割ほどしか家で本を読んでいる子はいません。最近「家読(うちどく)」と言って、家庭で家族で



本を読むことが推奨されています。お忙しいとは思いますが、週に1度でも構いませんので、テレビを消して、静かに落ち着いて本を読める環境づくりを保護者の皆さんにお願いしたいと思います。

### 3、学校生活全般について

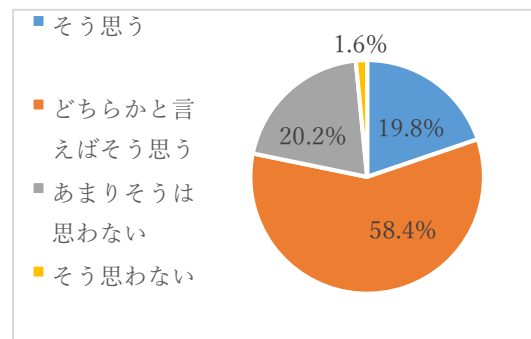
(10) お子さんが郷土学習で、地域の方から学んだり、一緒に活動したりしていることをご存じですか。



この設問に「そう思う」と回答した保護者は40.0%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した保護者は35.1%で、合計すると75.1%になりました。昨年度から本校はコミュニティー・スクールとして、地域が学校を創り、地域住民が教員と共に子どもを育てる学校づくりに取り組んでいます。そのためには地域住民に学校や子どもたちの様子を知っていただくことと、そして、子どもたちが地域を知ることの両方が大切ですので、地域の人から地域のことを学ぶ授業(郷土学習)を各学年で企画し、運営しています。

講師を快く引き受けてくださるのは、比較的高齢の方が多く、孫のような小学生を大変かわいがっていただき、一生懸命に教えてくださいます。子どもたちにとっても、担任以外の大人から勉強を覚えてもらうことが新鮮です。ボランティアとしての来校ですので、保護者の方も、ご興味がありましたら、講師としてどうかご参加ください。今年は、消防署の仕事の紹介や水泳授業の補助、委員会の花壇の整備、校外学習の付き添いに、保護者の方にご協力いただきました。

(11) あなたは、家庭教育や地域教育活動に、関心を持って取り組まれていますか。

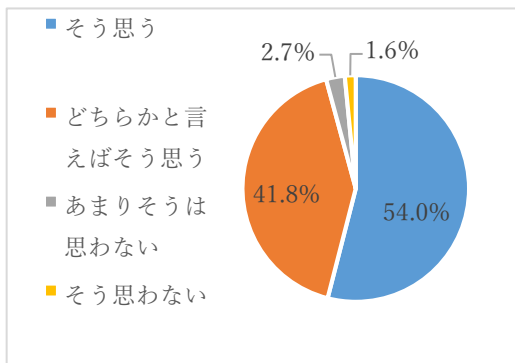


「そう思う」と答えた保護者は19.8%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた保護者は58.4%で、合計78.2%が肯定的な回答をされており、家庭教育や地域での教育活動に興味関心を持っておられる方が多いと思いました。

子どもは学校だけで育ちはしません。学校と家庭と地域社会の中で様々な人と触れ、自分とは違う価値観に触れ、多様な人々と協働しながら、社会の変化を乗り越えるための土台である「生きる力」を身に付けていきます。そのためには、大人も自分とは異なる立場にある人を尊重し、子どものための教育に向き合うこ

とが必要です。それが家庭での教育であり、地域での教育活動だと思いますので、どうかこのことに関心が高まることを願っています。

(12) お子さんは学習や行事等様々な教育活動を行いながら、楽しく学校生活を送っていますか。



「そう思う」と答えた保護者は54.0%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた保護者は41.8%で、合計95.8%が肯定的回答をされています。しかし、「学校は楽しいですか。」と児童に問うと、「楽しい。」「おおむね楽しい。」と答えた児童は85.7%しかなく、保護者と児童に10ポイントほどの差が見られます。

懸念されるのは、子ども自身が本当の自分の気持ちを家庭で出さないのではないか、ということです。高学年になるにつれて、親と話をあまりしなくなり、お互いの気持ちが分からないと嘆く保護者の方もいらっしゃいます。

また、行事については、

「今後、様々な行事や活動をコロナ前の状況に戻し、学校でしか経験できないことをしてほしい。」

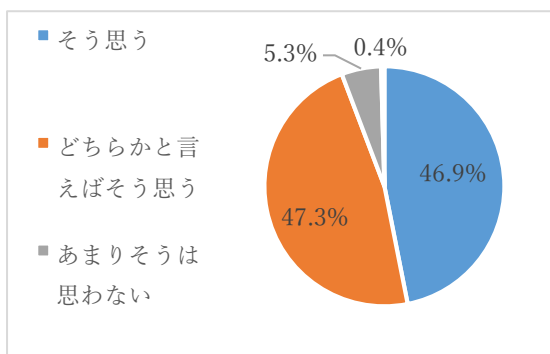
「学校行事を通常に戻してほしい。仲間と共に一つの目標に取り組む姿勢や大切さを学んでほしい、一生懸命取り組んでいる姿を親として見たい。」

というご意見もありましたので、検討していきたいと思います。

「お友だちとケンカをよくしているようですが、嘘をついてごまかすので、学校での様子が気になります。」

「言葉遣いが気になっているので改善したいと思います。」

(13) お子さんは、いじめたりいじめられたりすることなく、友だちと仲良く過ごしていますか。



「そう思う」と答えておられる保護者は46.9%、「どちらかと言えばそう思う」と答えておられる保護者は47.3%で、合計約95%が肯定的な回答をしています

児童アンケートでは15.3%(80人)が、いじめられたことやいじめられて困ったことがあったと答えていますが、その中には、すでにいじめが解消されているものも含まれています。

しかしながら、

「クラスの男児から〇〇〇〇〇とあだ名で呼ばれているよ

うで、嫌だと話します。」

「友人は少ないが、極端にいじめられることはありません。ただ、仲の良い友だちにもあまり心を開いていないようです。学校は嫌なことがあっても行くものだと考えているようですが、このまま中学校で楽しい学校生活を送れるのか心配です。」

「友だちから運動嫌いをからかわれたり、嫌な遊びを強いられたりすることがあるようです。本人が断っても聞き入れてくれないようで、親として悩んでいます。」

「クラスの友だちに容姿のことで何度かいじられたり不快な言葉をかけられたりすると聞いています。先生がいなくて起きたことを、家に帰って報告するので、事実確認ができず、どう対処すればいいのか難しいです。」

というご意見がありました。学校はいじめの早期発見や早期対応に努めるとともに、未然防止に力をいれています。「おかしいな？」と思われましたら、どうか担任までご連絡ください。